氷川神社
社報　第二十三号

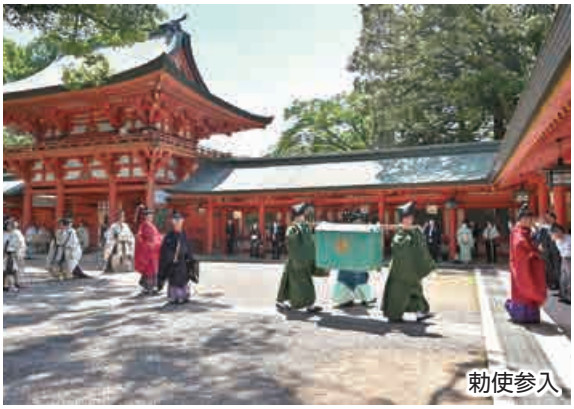
武蔵一宮

例祭　斎行

八月一日午前十時より例祭を斎行致しました。畏き辺りより勅使として掌典の筑波和俊様の御参向のもと厳粛に執り行われ、また東游の奉奏を頂き、皇室の弥栄と氏子崇敬者の幸福を祈念致しました。

来賓に神社本庁統理の御名代として神社本庁総長田中恆清様（石清水八幡宮宮司）、埼玉県神社庁庁長高麗文康様（高麗神社宮司）、さいたま市長清水勇人様、県内神職、また人数を制限して招待した崇敬者など約一九〇名の御参列を頂きましたが、直会は本年も中止となりました。

勅使奉迎のための山車・神輿参集は、高鼻町、宮町、大門町、下町、堀の内町、東町の六町内あわせて十基の参加となり、三年ぶりの活気がまた一つ、境内に帰ってきました。尚、例祭にあわせ行われる大宮駅東口の中山道まつりや西口スパークカーニバルは本年も御輿渡御が実施されませんでした。代わりに、東口では大宮区役所、Ｂｉｂｌｉ、大宮門街で、西口ではＤＯＭショッピングセンター、大宮そごうに飾り神輿が設置されました。


勅使参入

祭員参進

お祓いを受ける山車

東游奉奏

DOMショッピングセンター

大宮門街

Ｂｉｂｌｉ

写真提供：さいたま観光国際協会

神幸祭（じんこうさい）　斎行

八月二日午後三時、神幸祭を斎行致しました。令和二年、三年度は新型コロナウィルス感染症感染防止の観点から、神職が神輿を運び、舞殿で橋上祭を行っておりましたが、本年は旧神領地の六町内（堀の内、土手、大成、上落合、新開、東大成）の氏子有志、また氏子青年会の会員の方あわせ約百名の皆様に輿丁奉仕を頂き神輿渡御、三年ぶりに神橋にて橋上祭を行いました。

雪洞書画奉納者

例祭に際し左記の皆様より雪洞書画の奉納を頂きました。御篤志に感謝申し上げます。（順不同敬称略）

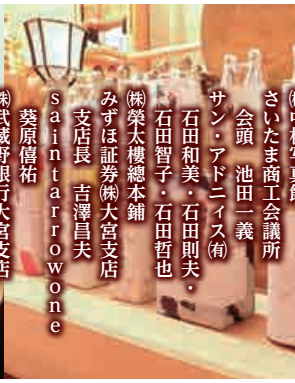
内田　すず子
堀澤　節
山田　郁子
小林　瞳

牧野　安甫
飯野　直紀
牧田　範男
加藤　正
蔦島　雲外
金田　石城
山北　知子
清水　昌子
島﨑　英子
吉澤　公子
久保田　満寿

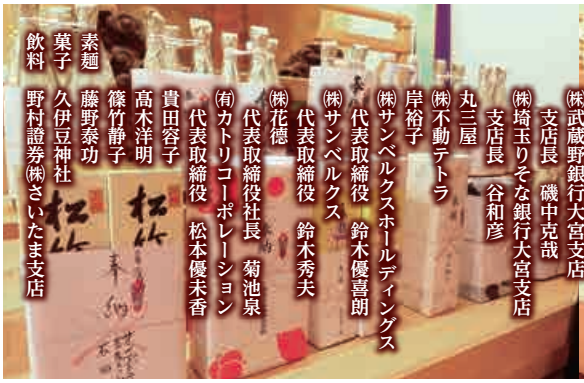
奉納御礼

例祭に際し左記の皆様より奉納を頂きました。御篤志に感謝申し上げます。（順不同敬称略）

清酒
㈱電成社
㈱和泉空調設備
㈱中村写真館
さいたま商工会議所
会頭　池田一義
サン・アドニイス㈲
石田和美・石田則夫・
石田智子・石田哲也
㈱榮太樓總本鋪
みずほ証券㈱大宮支店
支店長　吉澤昌夫
Saintarrowone
葵原僖祐
㈱武蔵野銀行大宮支店
支店長　磯中克哉
㈱埼玉りそな銀行大宮支店
支店長　谷和彦
丸三屋
㈱不動テトラ
岸裕子
㈱サンベルクスホールディングス
代表取締役　鈴木優喜朗
㈱サンベルクス
代表取締役　鈴木秀夫
㈱花徳
代表取締役社長　菊池泉
㈲カトリコーポレーション
代表取締役　松本優未香
貴田容子
髙木洋明
篠竹静子
藤野泰功
久伊豆神社
野村證券㈱さいたま支店



素麺
菓子
飲料



祭事暦

当社では毎日の日供祭をはじめ年間約七十の祭典を行い、謹んで御皇室の弥栄と国家安泰、五穀豊穣と氏子崇敬者の繁栄を祈願しております。

七月
一日　月次祭
十五日　献詠祭（兼題　夏の夜）
三十一日　例祭前日祭

八月
一日　例祭
二日　神幸祭
十五日　献詠祭（兼題　霊祭り）
埼玉縣護國神社みたま祭

九月
一日　月次祭
十五日　献詠祭（兼題　蕎麦の花）
敬老祭
二十三日　秋季皇霊祭遥拝式
秋分祭
天皇皇后両陛下
御渡航還幸啓奉告祭

例祭前日祭　宵宮　お日待ち祭

例年、七月三十一日には例祭前日祭が行われます。

宵宮祭が行われる神社もありますが、宵宮とは祭礼の前夜に行われる祭で夜宮祭、夜宮ともいいます。

この宵宮の祭儀により祭神を迎え奉り、本殿に奉斎し翌日祭礼を行いますが、前夜祭や準備祭としてのみ考えられる事もあります。宵宮の他、夜に行われる祭りではお日待ち祭があります。一・五・九・十一月の吉日を選び潔斎して寝ずに日の出を待って拝むお祭りで、集落で講を作り共通の飲食をする事で結束を強めました。マチは古語でマツリと同義であるため、神の傍にいてともに夜を明かすという意味ですが、後に待ちに転じました。十干十二支の組み合わせによって出来る日のうち、庚申や甲子などの待ちは全国に広く分布しており、庚申講はおさる待ちともいわれます。お日待ち祭の名前だけが残り、日中に行われる事も珍しくなく、五穀豊穣を感謝し氏子が集まる秋祭りをお日待ち祭と呼ぶ事も多くあります。そこには五穀豊穣と共に集落の平和と発展への祈りが根底に息づいています。

7月31日　夕刻の拝殿

7月31日　夕刻の楼門

7月31日　夕刻の社務所斎館

社頭往来①

全国氏子青年協議会大会

長岡天満宮

七月二日、三日京都府にて全国氏子青年協議会の第六十回定期大会と総会が行われ、当社氏子青年会から九名が参加致しました。あわせて長岡天満宮（京都）と日牟禮八幡宮（滋賀）を正式参拝致しました。

さいたま市職場体験

さいたま市中学生職場体験事業「未来くるワーク体験」で七月五日から七日まで桜木中学校の生徒四名を受け入れました。境内清掃や御札の授与の他、最終日には舞殿にて豊栄の舞を奉奏頂きました。

七五三セットプラン展示会

七月二十三日より貸衣裳と写真撮影がセットになった七五三の展示会が始まりました。

武蔵野銀行小麦奉納

七月二十六日、小麦を奉納の武蔵野銀行様御参列のもと、奉納奉告参拝を行いました。こちらの小麦は、見沼田んぼを舞台にさいたま市内での小麦の地産地消を促進する事を目的とした、「見沼 田んぼ〝小麦〟6次産業創造プロジェクト」の小麦です。

例祭前清掃奉仕

七月二十七日午前九時より例祭前の神域清掃奉仕が行われました。本年の参加者は当番町内である天沼町、北袋町の氏子の他、氏子青年会、敬神婦人会、八雲睦会の皆様です。本殿周辺や楼門、廻廊、摂末社、勅使館などの清掃をして頂きました。

社頭往来②

助勤説明会

八月二十八日、令和五年正月に御奉仕頂く助勤奉仕の希望者に向け説明会を実施致しました。

大宮北小チャレンジスクール

九月三日、五日、大宮北小の「氷川神社散策～氷川神社のいろはを学ぼう～」を実施致しました。

世界平和戦争早期終結祈願

写真提供：Acore おおみや

九月三日、クラーク記念国際高等学校、ウクライナカルチャーデイ一同、キワニスクラブ共同で正式参拝を行い、世界平和と戦争早期終結を祈願致しました。

柳生心眼流奉納演武

九月四日、正式参拝の後、柳生心眼流兵法柳正館会員により演武が奉納されました。

子ども大学SAITAMA講座

九月四日、境内で子ども大学SAITAMAが開催され、四十名の小学生が当社の歴史や参拝の仕方などを学びました。

特別紙朱印「満月と蘭陵王」

九月八日より秋の特別紙朱印「満月と蘭陵王」の授与を開始、九月二十五日に授与を終了致しました。

社頭往来③

埼玉県茶道協会秋の茶会

九月十日、勅使館及び呉竹荘にて埼玉県芸術文化祭２０２２地域文化事業として埼玉県茶道協会秋の茶会が開催され、埼玉県芸術文化祭担当課長様他、県内外から約三五〇名の参加者がございました。

茶席　表千家　相良宗惺
　　裏千家　山本宗敏
　　大日本茶道学会
　　齊藤仙耶

表千家献茶式茶会

九月二十三日、表千家同門会埼玉県支部献茶奉賛会による献茶式が執り行われ、左海大宗匠の御奉仕にてご神水による濃茶薄茶が神前に点じられました。本年は三年ぶりに茶席も設けられ二百五十余名の参会者がありました。

吟道奉賛会

九月二十五日、正式参拝の後、呉竹荘にて日本吟道奉賛会会員により第四十五回吟詠剣詩舞奉納大会が行われました。

全国敬神婦人会大会

九月二十七日、明治神宮会館にて第七十二回全国敬神婦人大会が開催され、当社敬神婦人会より二十名が参加、また大会前に芝大神宮を正式参拝致しました。

芝大神宮

神宮大麻頒布一五〇周年に寄せて（三）神宮大麻が御家庭に届くまで

令和四年は、伊勢の神宮の御神札である「神宮大麻」が明治五年より全国の御家庭に配られるようになってから一五〇周年にあたります。今号では神宮大麻が伊勢の神宮でどのように作られ、各家庭に届くのか御説明致します。

大麻暦奉製始祭（一月上旬）

年頭にあたり、今年の大麻と暦の奉製を始める事を大御前に奉告します。参籠潔斎をし、斎服を著した禰宜が案前に進み、今年一年間に奉製する大麻の第一号となる大麻に謹んで神璽を押捺します。

大麻用材伐始祭（四月中旬）

大麻の御用材を伐り始めるにあたり、宇治橋にほど近い丸山祭場で行われ、「大宮山の木木の木本に坐す大神」をおまつりします。禰宜以下神職が奉仕し、侍烏帽子に素襖を著した工匠が忌斧をふるって「伐始の儀」を行います。

大麻暦頒布始祭（九月十七日）

奉製された神宮大麻は、内宮神楽殿において、全国の神社庁代表者参列のもとに大麻暦頒布始祭が執り行われ、授与されます。

写真提供：神宮司庁

埼玉県神社庁大麻暦頒布始祭（十月）

神宮より授かった神宮大麻は、まず埼玉県神社庁の神殿にて奉告祭を行い、各神社にお頒ちされます。この後、当社では氏子総代の皆様にお集まり頂き、改めて奉告祭を行い、各家庭に神宮大麻をお配りしております。神札所でもお求めの方にお頒ちしております。

写真提供：埼玉県神社庁

七月の奉納献華

八月の奉納献華

九月の奉納献華

結婚式の御案内

氷川神社結婚式御用部では、本殿での模擬挙式や婚礼のアイテム展示会、新規御相談会を開催しております。

結婚式御用部は
社務所１階です

参道清掃奉仕御礼

参道の清掃活動を頂きました皆様の芳名を紹介し、謹んで御篤志に感謝申し上げます。（五十音順、敬称略）

・阿含宗埼玉道場
・大宮明るい社会づくりの会
・みずほ証券株式会社
・武蔵コーポレーション株式会社

正式参拝及び諸会議

（敬称略）

七月
一日　参道対策室部会
三日　幡ヶ谷氷川神社
皇学館大学神社史研究会
八日　敬神婦人会
九日　祭典年番会議
十日　武蔵菊花会菊作り研修会
二十六日　㈱武蔵野銀行（小麦奉納）
二十七日　例祭前氏子清掃奉仕

八月
六日　國學院大學神道学専攻生
七日　武蔵菊花会菊作り研修会
九日　神道婦人会
十七日　ＮＰＯ法人鳩ヶ谷協働研究所
十八日　國學院大學院友神職会
埼玉支部
二十一日　婚礼展示会

九月
一日　参道対策会議
三日　クラーク記念国際高等学校
四日　柳生心眼流兵法柳正館
十五日　敬神講社理事会評議員会
十八日　武蔵菊花会菊作り研修会
二十日　サイタマ・レディース経営者クラブ
二十五日　日本吟道奉賛会埼玉地方本部

徳川家康公と氷川神社

戦国時代末の天正十九年(一五九一)、当社は徳川家康公の判物(室町時代以降、将軍や大名などが所領安堵などを行う際に花押を署して下達した文書)により社領一〇〇石が寄進されました。また、文禄五年(一五九六)には家康公の命により伊奈備前守忠次が社殿造営を行いました。その後、江戸幕府により慶長九年(一六〇四)には二〇〇石の社領が加増され、合計三〇〇石となります。

家康公は元和二年(一六一六)に七十五歳で薨去され東照宮に祀られましたが、薨去の前年の元和元年に当社に寄進されたと伝わる神輿を描いた図と、神輿につけられていたという伝承を有する絹地の布が残っております。さいたま市周辺は、寛永十年(一六三三)に紀州徳川家の鷹場に定められましたが、鷹狩りの折に奉納された扇を御神体として、境内に東照宮を勧請したという事ですが、現在その東照宮は残っておりません。

社領の寄進や奉納、神事に関して徳川家の家紋である葵御紋の使用が認められるなど、篤い信仰が寄せられますが、これは家康公以降も引き継がれていきます。

「氷川明神社領寄進状添状写し」
慶長９年(1604)の史料
井上貴一朗氏蔵

「神輿の絹地」「神輿図」 岩井隆興氏蔵

分社紹介　江戸幕府から信仰された赤坂氷川神社

コロナ禍前の赤坂氷川祭の賑い

御祭神　素盞嗚尊　奇稲田姫命　大己貴命

鎮座地　東京都港区赤坂六・十・十二

由　緒　創祀は、天暦五年(九五一)東国を遊行していた蓮林僧正が一ツ木村(現在の赤坂四丁目付近)で一夜を明かすと夢中で御祭神のお告げがあり、この地に氷川明神の社殿を建てお祀りをしたことにはじまります。

江戸中期の享保元年(一七一六)、紀州徳川家の吉宗公が八代将軍職を継ぐにあたり、紀州藩の中屋敷が赤坂にあったことから、氷川明神への幕府の尊信は高まりました。同十四年(一七二九)、吉宗公は老中水野忠之を総責任者に命じて現在地に社殿を造営しました。翌十五年(一七三〇)四月二十六日に一ツ木村から現在地への遷座が行われ、二十八日には吉宗公直々のご参拝がありました。

以後十四代将軍家茂公までの歴代将軍の朱印状が下付され、「厄除」「縁結び」の鎮守神としてより一層ご神徳を高められました。明治元年、明治天皇より新しい首都東京の鎮護と万民の安泰を祈る「准勅祭社」に定められ、現在では「東京十社」の一社に数えられております。

江戸期から続く、疫病退散を願う赤坂氷川祭は最盛期には山王祭、神田祭に次いで江戸第三の祭と認識されておりました。

地域の氏神神社紹介⑤

氷川神社は武蔵国の一宮として広く守護しておりますが、当社以外にも古くから「村の鎮守」、地域の氏神様として祀られている神社がございます。

八雲神社

鎮座地　さいたま市大宮区大成町三―二四二―二

由緒　神社創建の年代は必ずしも明確ではないが、伝承によれば、慶長五年（一六〇〇）、大成村の初代領主となった徳川家の旗本・小栗（又一）忠政が、社殿を建立して神霊を勧請し、併せて自身の守護神（迦楼羅）をも配祀して、住民の平安息災五穀の豊穣を祈願したと伝わる。

八雲神社

鎮座地　さいたま市見沼区蓮沼五〇一

由緒　創建年代は不詳であるが、口伝に、昔、岩槻道を通って村に侵入する疫病を防ぐため、守護として街道側に社を勧請し、無病息災を祈願したと伝わる。社殿は一間社流造の小祠で、昭和二十四年の造営。境内には江戸期の庚申講などの名残りである青面金剛などがある。

八雲神社

鎮座地　さいたま市見沼区蓮沼七五六

由緒　創建年代は不詳であるが、口伝に、村が度々、虎呂利（コレラ）などの伝染病に見舞われた事から社を勧請し、霊獣である獅子頭を作ったと伝わる。社殿は一間社流造で、古い社名は牛頭天王社であったが、明治初年に八雲社、更に現在の八雲神社と改めている。

八幡神社

鎮座地　さいたま市見沼区膝子六二三

由緒　創建は後柏原天皇の御代、永正六年（一五〇九）で別当八万山明王院満蔵寺の開山法印の時と伝わり、本殿内には騎乗の八幡神像を奉安する。社殿造営は明治十二年に社殿再建正遷座祭、大正二年に拝殿上棟祭の棟札が残る。境内には御神木として樹齢三百年の大欅がある。

令和５年の厄年（数え年）

数え年		前厄	本厄	後厄
男の厄	25才	平成12年	平成11年	平成10年
男の大厄	42才	昭和58年	昭和57年	昭和56年
男女厄	61才	昭和39年	昭和38年	昭和37年

数え年		前厄	本厄	後厄
女の厄	19才	平成18年	平成17年	平成16年
女の大厄	33才	平成4年	平成3年	平成2年
女の小厄	37才	昭和63年	昭和62年	昭和61年

令和５年の方位除（数え年）

中央（八方除）			北			北東			南西		
大正	13年	100才		3年	96才		5年	94才		2年	97才
	8年	91才		12年	87才		14年	85才		11年	88才
	17年	82才		21年	78才		23年	76才		20年	79才
	26年	73才	昭和	30年	69才	昭和	32年	67才	昭和	29年	70才
昭和	35年	64才		39年	60才		41年	58才		38年	61才
	44年	55才		48年	51才		50年	49才		47年	52才
	53年	46才		57年	42才		59年	40才		56年	43才
	62年	37才		3年	33才		5年	31才		2年	34才
平成	8年	28才	平成	12年	24才	平成	14年	22才	平成	11年	25才
	17年	19才		21年	15才		23年	13才		20年	16才
	26年	10才		30年	6才	令和	2年	4才		29年	7才

第二十四号は令和五年一月十五日発行予定です

正月特別紙朱印
1月1日授与開始

大湯祭特別紙朱印（金・銀）
11月30日授与開始

ホームページ

インスタグラム

ツイッター

発行　令和４年10月15日　**発行所**　氷川神社社務所
写真協力　赤坂氷川神社　宮野信昭　中村写真館　工藤裕之　**印刷所**　株式会社 秀飯舎
さいたま市大宮区高鼻町１-407　電話 048-641-0137　https://musashiichinomiya-hikawa.or.jp